



# ECOZZERIA NEWS LETTER

## 2013年7月のエコツェリア トピックス

<http://ecozeria.jp/>

大手町・丸の内・有楽町（以下、だいまるゆう大丸有）エリアのサステイナブルなまちづくりを行うシンク&ドゥタンク「エコツェリア協会」では、まちづくりや未来の社会を考えるイベントやプロジェクトを多数実施しています。先月から配信している本ニュースレターでは、当月のイベントや各プロジェクトの進捗をまとめ、当協会の情報提供を行なっていきます。

7月26日(金)～  
8月31日(土)

大手町・丸の内・有楽町  
打ち水プロジェクト2013

  
打ち水プロジェクト

## 1000人で打ち水！コミュニティ感覚を生む、まちの風物詩

今年も大丸有地区の夏の風物詩である打ち水を実施します。このプロジェクトでは日本古来の避暑法を用いて夏の暑さを和らげながら、エリア全体のコミュニティ意識を高めます。初日の26日は、1000人規模でオープニングイベント「丸の内 de 打ち水」が行われます。また同日は行幸地下通路で「丸の内行幸マルシェ」が、仲通りで「東京丸の内盆踊りまつり」が開催されます。

7月29日(月)～  
8月27日(火)

大手町・丸の内・有楽町  
エコキッズ探検隊2013

  
エコキッズ探検隊

## プロフェッショナルの街ならではの本格的な体験を子どもたちへ

夏休みの小学生を対象に、日本有数の企業が集まる丸の内だからできる学びを提供する「エコキッズ探検隊」が始まります。「本格的な体験」をコンセプトに、企業が行うプログラムを通じて子どもたちの好奇心を満たし、次世代を担う環境リーダーの育成を目指します。普段滅多に見ることのできないビルの地下免震装置などの防災設備を見学したり、プロの料理人から直接食について学んだりするなど、他ではできない貴重な体験ができるワークショップが目白押しです。さらに今年度から新たに、光通信の原理を用いた光糸電話の制作などの理科実験にも挑戦できます。

7月24日(水) | 大丸有つながる食プロジェクト

 大丸有つながる食プロジェクト

## 食の共同調達2年目。シェフが千葉の生産地を視察

大丸有地区のレストランにおける食の共同調達を2012年3月から行っている「大丸有つながる食プロジェクト」では、エリア内のシェフを対象に千葉県香取市の農場視察ツアーを行います。参加者は実際に生産現場を見ることでつくり手の思いや安全性を確認し、生産者は都市の消費者が求めている食材についての情報を仕入れることで、双方に有益なつながりを生み出します。今回はいちじくやフルティカトマトなどを栽培する農園をまわり、生産者との交流や、取引の促進を図る予定です。

### その他

【3\*3ラボ】アジアを舞台に、地域活性、福祉、建築の分野で活躍する若者たちの話を聞く 7月17日/24日/31日（すべて水曜日）

3R (Reduce・Reuse・Recycle)とサードプレイスをテーマに、アジアで活躍する若者を紹介するトークセッションを開催している「3\*3ラボ」。明日17日は「あかりのともしかた～ちかけん×ともしびプロジェクトによる地域活性の未来～」と題して、熊本県阿蘇市で竹を使ったあかりの制作を通して竹の可能性を模索している「ちかけん」と、「被災地に希望の光を灯し続けよう」をコンセプトに毎月11日に国内外でキャンドルに火を灯す活動をしている「ともしびプロジェクト」の各代表に話を聞きます。両団体の活動の中心にある「まちづくり・地域活性」について一緒に考えます。24日は地域医療・福祉の未来についてNPO法人Ubdobe代表理事の岡勇樹氏を、31日は日本の家具と家の関係性をテーマに注目の若手建築家の長谷川豪氏を迎えます。

▶▶▶当協会の会員企業向け研究会である「環境経営サロン」の活動内容をまとめた書籍『環境でこそ儲ける』（小林光【編著】/東洋経済新報社/2013年3月発売）が、大丸有エリア内企業の社内研修資料として活用されています。本書では、環境技術や環境サービスを、CSRや社会貢献として使うだけでなく、本業である事業活動とどう結びつけるのか。豊富な企業事例とともに紹介し、今後求められる環境先進企業像を描いています。

エコツェリア協会は大手町・丸の内・有楽町エリアのサステイナブルなまちづくりの推進を目的として設置され、新たなビジネス創出を視野に入れた「サロン・ワーキング」、丸の内朝大学や打ち水プロジェクトなどの「コミュニティアクション」、都市の低炭素化などを研究する「市場調査/R&D(研究開発)」、新丸ビル10階にある環境戦略拠点「エコツェリア」の運営の4事業領域からなるシンク&ドゥタンクです。